

1 沿 革

〔原始〕4万年程前の旧石器時代に、大型動物を追い求めてやってきた人々が、長野県の地に暮らし始めた。野尻湖（信濃町）付近で出土した石器やナウマンゾウなどの動物の歯や骨から、ここで人々が多くの動物を捕獲、解体していたことがわかる。また、県内では、日本各地の特色を持つ石器が発見されており、この時代、本県は既に東西文化の接点だったことがうかがえる。約1万6千年前に土器が作られ始め、縄文時代に入った。とりわけ、約5200年前の中期には縄文文化が繁栄をきわめ、県内各地に多様な土器文化圏が形成され、八ヶ岳西南麓の尖石（茅野市）や井戸尻（富士見町）など各地の遺跡から出土した土器や土偶の装飾・造形の複雑さは、当時の技術水準の高さを物語っている。和田峠から八ヶ岳にかけて採取された黒曜石は、本州最大の産地規模と石器の加工に適した質の高さを誇り、東日本を中心に、北は北海道函館市、西は奈良県からも発見されている、言わば信州ブランドの元祖である。約2500年前、弥生文化が伝わり、青銅器・鉄器が用いられ、水稻農耕が広がっていった。長野自動車道・上信越自動車道などの建設に伴う発掘調査により、水田遺構も多く発見されている。3世紀終わりから古墳時代となり、弘法山古墳（松本市）や森將軍塚古墳（千曲市）・川柳將軍塚古墳（長野市）など多くの古墳が造営された。

〔古代〕大化改新後の7世紀後半、東山道の一国として、律令制による「科野国」が成立し、713年の好字令により、科野国の表記は「信濃国」に改められた。奈良時代には国府が上田に置かれたといわれ、伊那・諏訪・筑摩・安曇・佐久・小県・埴科・更科・高井・水内の10郡が置かれた。信濃国は東国支配の拠点となり、望月牧など馬を育てる16の御牧も設置された。わずか10年余りであるが、諏訪国が分立した時期もあった。奈良時代末には、国府は松本に置かれるようになった。麻布や馬が特産品となり、また、善光寺や諏訪大社、修験の戸隠山が広く知られるようになった。

〔中世〕牧を基盤に弓馬に長じた信濃の武士は、保元・平治の乱で活躍し、1180年に挙兵した木曾義仲に従って都入りした。鎌倉幕府成立後、信濃国は源頼朝の知行地となり、信濃の武士の多くがその御家人となった。その後、諏訪氏に北条氏一門の武士が信濃各地に配され、北条義政が隠遁した塩田平は、「信州の学海」と称されたほど文化が進んだ地となった。この時期、諏訪大社の祭礼には、信濃国中の御家人が奉仕し、諏訪社は全国に勧請された。また、善光寺も源頼朝・北条氏の厚い庇護を受け、阿弥陀信仰の広がりとともに、全国各地で善光寺別院の造営や善光寺如来像の模造が行われた。信濃の武士たちは、国人（在地領主）として力を伸ばし、特に東北信の国人たちが結束（「大文字一揆」）して室町幕府が派遣した守護を追い返した、1400年の「大塔合戦」は、国内の大半の国人が結束する大規模な一揆となった。戦国期には、武田、上杉などの外部の勢力に従う者が多かったが、両軍が激戦を繰り広げた川中島合戦は有名である。

〔近世〕18世紀初めまで大名の改易・移封が重ねられ、江戸時代の信濃には、飯山・須坂・松代・上田・小諸・岩村田・竜岡（田野口）・松本・高島・高遠・飯田の中小藩と幕府領が入り組む状態であった。中馬と呼ばれる民間の運送業者が生まれ、各地で地場産業が発達し、善光寺詣も盛んになった。信濃町に生まれた俳人小林一茶は民衆の感情を句に詠んだ。また、儒学者の太宰 春台（飯田藩）、開国論を唱えた佐久間

2

しょうげん

象山（松代藩）らが活躍した。この時代の信濃地域は、東西南北の人々と物資、文化が交わる十字路の役割を果たすことになった。

〔近代〕明治維新により旧幕府領が没収されて伊那県が設置され、飯島陣屋（飯島町）に県庁が置かれた。伊那県は1870年に分割され、東北信地域が中野県となったが、「中野騒動」で県庁が焼失したため、1871年6月に長野村の西方寺へ県庁が移されて長野県と改称された。同年7月の廃藩置県及び同年11月の第一次統廃合により佐久・小県・更級・埴科・高井・水内の6郡が長野県に、諏訪・伊那・筑摩・安曇の4郡と飛騨地域が筑摩県となったが、1876年に筑摩県は廃止となり、飛騨地域を除いて長野県に合併した。こうして信濃全域を統治する現在の長野県が誕生したが、県庁が北に偏っていること、広域ゆえの理由から、県庁を松本あるいは上田に移す移庁論や、中南信を長野県から独立させる分県論も起こった。日本は、1931年の満州事変に始まり、1941年には太平洋戦争開戦と長く厳しい戦争の時代に突入した。満州事変から太平洋戦争終結までの期間に兵事動員された県民は約23万人、そのうち5万3千人余りが戦病死亡した。また、満蒙開拓団員として海を渡った県民は3万数千人に上り、その送出数は全国一であったが、終戦時の避難と混乱の中で、1万6千人以上が犠牲となった。

〔現代〕1947年実施の戦後初の総選挙は、女性の選挙権を認めた初めての総選挙であり、本県の女性議員数は全国一となった。本県の産業は、明治以降、製糸業が中心であったが、昭和初期頃に養蚕業の減少とともに衰退し、戦後は、時計製造などの精密機械工業が発展し、本県の工業発展のけん引役として大きく貢献した。一方、農村部では過疎化が進み、過疎対策が各地域の課題となった。1998年に72の国と地域が参加した「長野冬季オリンピック・パラリンピック」が開催されたことにより、国際交流の輪が大きな広がりを見せた。県内の高速交通網は、1981年の中央自動車道県内区間の開通をはじめとして高規格道路整備が進んでいる。本県唯一の空の玄関口である松本空港（現 信州まつもと空港）が1994年にジェット化され、運航路線の拡充が図られている。1997年には長野新幹線（東京－長野間）が開業し、2015年に北陸新幹線として金沢まで開通、2024年には福井まで延伸した。さらに現在、飯田市に県内駅が設置されるリニア中央新幹線の整備が進められている。本県は、少子化と人口減少の加速、DX（デジタルトランスフォーメーション）をはじめとした技術革新の急速な進展、地球規模の気候変動と自然災害の激甚化・頻発化、新たな感染症による影響の拡大など、時代の大きな転換点に立っている。

（長野県立歴史館資料）

2 境域及び位置

本県は、本州の中央部に位置しています。

東は群馬、埼玉、南は山梨、静岡、愛知、西は岐阜、富山、北は新潟の8県に隣接し、東西に短く南北に長い地形をしています。東西約120km、南北約212km、面積は13,561.56 km²であって、47都道府県のうち、北海道、岩手、福島につぎ、第4位です。



県内は、南佐久、北佐久、小県、諏訪、上伊那、下伊那、木曽、東筑摩、北安曇、埴科、上高井、下高井、上水内、下水内の14郡と長野、松本、上田、岡谷、飯田、諏訪、須坂、小諸、伊那、駒ヶ根、中野、大町、飯山、茅野、塩尻、佐久、千曲、東御、安曇野の19市に分かれ、郡はさらに23町35村に分かれます。(市町村数は令和7年1月1日現在)

また、本県の位置を経緯度でみると、次のとおりです。

東端……南佐久郡川上村

東経 138°44′22″ 北緯 35°55′58″

西端……木曽郡王滝村

東経 137°19′29″ 北緯 35°48′43″

南端……下伊那郡根羽村

東経 137°34′43″ 北緯 35°11′55″

北端……未定(飯山市)(下水内郡栄村)

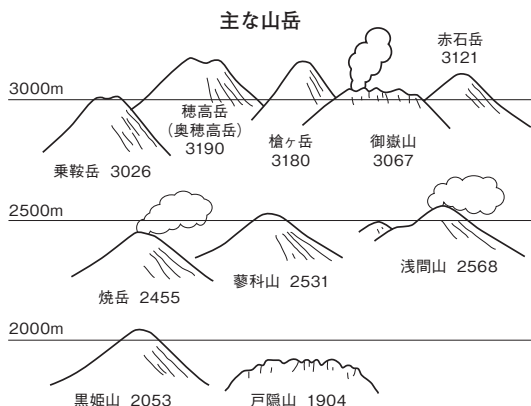
東経 138°31′25″ 北緯 37°01′49″

3 地 勢

本県は、日本の屋根と呼ばれていて、県内に諸山岳が重なりあい、標高3,000m前後の高山が四方を囲んでいます。

また、この地勢は、諸河川の源をなしており、天竜川、木曽川は太平洋に、千曲川、犀川は合流して、信濃川となり日本海に、それぞれ注いでいます。

県内の平地は、これら諸河川の流域にあっておよそ6地方に分かれています。千曲川流域は佐久平と善光寺平、犀川流域は松本平、木曽川流域は木曽谷、天竜川流域は伊那谷、諏訪湖を中心とする諏訪盆地等がそれぞれです。



国土地理院「日本の山岳標高一覧—1003山—」

